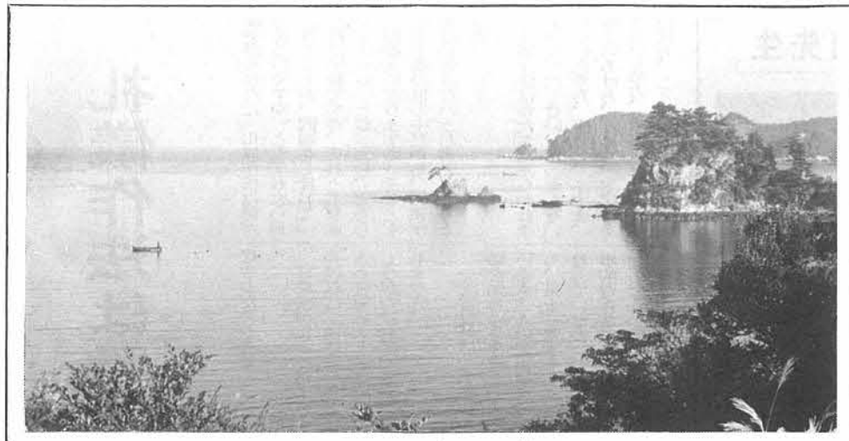


新しくクローズアップされる芦北海岸

津奈木

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話　（代表115番）
編集人　岡松　壮
印刷所　緒方印刷所
八代市通町
電話（八代）② 3117番

あいさつをしましょう

どうすれば津奈木はゆたかになるか

町長　鶴田宣尊

どうしたら、津奈木町をゆたかにすることができるかを日夜考え、走りまわっています。

名誉なことではありませんが、本町は毎年人口の一割以上が流出し、財政的にもくるしいところから、政府は過疎地として援助してくれます。

とにかく、人口の流出をふせぎ財政のたてなおしをする才一は、津奈木に工場をもってくることより外ないと思います。南国殖産のセメント工場が流れましたことは残念ですが、工場誘致は今年中には何とか目鼻をつけたいと思っています。

才二は農業構造改善事業の指定をうけて、柑きつの体質改善をはかりたい所存であります。先日、農振法の指定はうけました。そして才二次の農業構造改善事業の指定もうけまして今年から実施にうつります。三億余の金を使いますので、相当の改善ができ、当地区の農家は救われるでしょう。

才三に津奈木小学校跡地を町民のいこいの広場にしたいと思います。夜間でも運動ができるように、明るい電灯をつけます。ここに入ると、ソフトボール、バレーボール、走る、とぶ、投げる、水泳などやれるようにします。健全な娯楽場として、町民によろこばれるところになりましょう。

才四に、芦北、水俣の町や市が一つになって芦北海岸を開発しようということであります。

今までは自分の町さえよくなればよいという行き方でしたのを、一市四町がまとまって、芦北海岸の他に比類のない美しさを生かしてゆこうと動いています。

津奈木海岸は、芦北海岸の中で特に景色がよく、また近くに湯児をもっていますので、開発によってうくる利益は本町が一番大きいのであります。

才五に大島つむぎ織り工場を持ってくることであります。土木工事に出られない飼婦人で、手のすいている人に、また中・高校を卒業してわざわざ遠方に出てゆかないようにとはかったのであります。希望者が九十名ばかりありましたので、説明会を開き、また四月中旬に、現に働いている工場を視察する予定であります。

以上五つを本町発展の方策としてあげました。どうぞ町民のみなさんの御協力をお願いいたします。

公民館報を就職先に

子供さんの就職先をお知らせくださると、公民館報発行ごとに、子供さん宛郵送します。お知らせください。待っています。　公民館より

津奈木方言チンナリタンナリ(2)

○クッズク（うつむく）
○グズル（くんどく注意する）グズラレタ（小言いわれた）
○ゲル（退化する）　鶏がゲッタ
○コボシル（かじる）　ねずみがコボシッタ
○コソクル（小修理する）　ソソクル
○コズム（積み重ねる）　ワラコズミ（稲わらを積めるもの）
○コカス（転がす）　ウチコカス（打ち倒す）　アブラコカシ
○ゴザウットル（病気でぶらぶらしている）　又は油売ること
○サルク（歩きまわる）　ここらをサレチクル　タカザロキ（遠方にかけて歩きまわる。
○サビクウ（さびる）　サビクワセタ
○シゲル（散乱させる）　庭ばシゲカス
○シビル（少しづつ洩れ出る）
○ショム（浸みていたい）　ヨウチンがショム
○ショノム（ぬたむ）　ショノミゴ（老人になって出来た子）
○シャグ（押して平たくする）　シャギムギ　ビッシャグ　カンシャグ（噛む）　オッシャグ　ツンシャグ　ウッチャグ
○ジュクル（じめつく）　ジュクタン
○スバトウ（あばれる）　スバタウケ、ケガスル
○スタダル（垂れ下がる）
○スビク（寒さで痛む）　テ（手）ンスビク　歯ンスビク
○スワブル（吸いとる）　しゃぶる
○セク（閉める）　戸バセク　アトゼキ　ムシノセク
○セシカウ（まめに働く）
○セワヤク（心配する）　悶える
○セキコム（あわてる）
○ゼレメク（ぜれぜれのどを鳴らす）
○ソネバル（からだを後方にそらせる）
○ソカス（水につけてあくをぬく）
○タギル（湯が煮えたつ）　体温が高まる
○ダオル（たわむ）
○タボウ（たくわえる）
○ダル（たるむ）　足がダレタ　仕事でダレタ
○チナム（連れたつ）　チナマセタ（連れだたせて）
○ツグラウツ（とぐろまく）

二太郎駅伝伴走記（続き）

松本央

松本央先生は二太郎駅伝には親身になって物心の御援助下さった。特にお医者としても。二太郎駅伝伴走記は選手の必死の力走ぶりが見てるように書かれてある。

宮崎健三君

佐敷太郎旧国道走者の宮崎健二君（三十三歳）は年令的には無理な走路だし、距離でもあるが、われわれの心配もものかわ、きたえ込んだ安定した走り方で、峻嶮な山路を兎のように登ってくれる。車の中は皆声もなく追ってゆく。はるか向うの大きく迂回した山腹を車の一団が行く、あれは日奈久チームか田浦チームか？しかし長い道だと思う。漸く国道三号線へ出て最後のラストスパートにかかる。試走の記録より一分間も短縮して、次の赤松太郎走者の本山三好君へ引継いだ。

本山三好君

荒い走法だが、選手宣誓をやっただけ頑張りながらついてくれる。この頃から車の中の補欠選手諫山君が「小便がしたい」と訴え始めたが誰もとりあわない。三時間経っているのだから無理もないが

「でけんぞ、押えつけとけ」
「あと、どんくらいですか」
「三十分」
「もうもてん……」

漸くトンネルが見えて来た。交通渋滞を避けるため、約束通り先行し、向う入口で本山君を待つことにする。車を止めると諫山君だけではなかった。皆がズボンを押えて飛び出してゆく。間もなく必死にあえいだ本山君が現われ、すかさず伴走。監督の声が、気をとり直したように、再び怒鳴り始める。

「いちにい、いちにい、下りは二十キロで行け、いちにい、いちにい」

後方にどこの走者か、既にバックミラーに写ってきた。距離二百―三百か。

坂口成巳君

君ヶ渕、鳩山折り返し点までは坂口成巳君三十五歳、小柄だがまじめな、そして安定した走りぶりは安心感がもてる。例によってタスキの両端を両手で握って、それで首をしめて様にしてトコトコ走ってゆく。海が見えてきた。風が悩ませる。区間二位の記録で還り、古川秀喜君四十二歳にタッチする。

古川秀喜君

タスキを取ると短距離走者のように飛び出す。去日まで風邪の治療に来ていた彼をふと危ぶむ。果してニキロ位から彼の体調がガクッと変るのが分る。顔は苦痛にゆがむ。その横をついに芦北チームの選手が抜き去ってゆく。

「離れぬな！ついてゆけ、離れぬな！ついてゆけ」

顔は淡緑黄色に変化しているが、彼は死力をつくして走り続ける。無理だ。これはあぶない。併し彼は遂にゴールへ飛び込んだ。しかも彼は自分の記録を一分も縮めてくれていた。

大会救急医であるが、これは救急車のベテラン看護婦福山民子君にまかせ、連絡をまつことにして、次走者帰り赤松太郎の代役として急遽用いられた永原友一君につくことにする。

永原友一君

津奈木チームの運命は、一にこの永原君と、そして同じ補欠選手の津々木一美君にかかっている。どんな走りぶりを示してくれるのか？われわれは沈んだ気持のまま追いかける。だがよく走ってくれた。その走りぶり、健闘は津奈木代表選手として、どこに出してもはずかしくない。グッと胸がしめつけられる。直線道路にかかっても前の選手はもう見えないが、彼のスピードに変化がない。そして次の津奈木町主将の森下紀裕君へタスキを渡す。

森下紀裕君

彼は自信タップリだった。車の中の誰もが、彼はすぐにでも一人あるいは二人は追い抜いてくれるものと思い込んでいる。しかし今

芦北を追い抜いた瞬間、この時津奈木は３等になった。

迄ってくれた。漸く終りに近く芦北の町が眼下に見える頃ちょっと彼本来のスピードとフォームが見られたのだった。

津々木一美君

次の津々木一美君四十歳、この佐敷湯浦区間を走らせること自体が無理なのだが、仕方がない。ところが、この男凄い。津奈木魂の持主、「ひとつの魂胆」の持主

五―三十と上がってゆく。気狂沙汰だ。湯浦町民はアッケにとられて見送っている。そのままタスキを最後の走者にしっかと渡した。われわれ伴走車には後を見るのは許されない。

徳富茂君

津奈木太郎選手徳富茂君十九歳「足はもうなんともない」というが果してそうか。津々木君とはうって変って冷静な走り方をしてくれる。はじめから自分の脚を確める様に十八キロ。はるか彼方前方を第三位芦北チーム選手団と思われる車の群が三―四台走っている。われわれはこのときまだ第三位を思わなかった。りっぱ二力一ばい走ってくれればよい。そして今までのどの選手も全力をふりしぼって走ってくれたことを想った。津奈木太郎への登り坂カーブへかかってもスピードは落ちず、悪かった右脚もよく、そのスピードを支えてくれている。「いちにい、いちにい」ペースは変らない。トンネルの中でも伴走する。「いちにい、いちにい」

前のチームの選手の姿ももうはっきりと分る。じりじり、じりじり差がつまって来る。魔のカーブでは既にもう五〇―一〇〇の間に迫っている。他の選手が伴走しているのもみえる。魔のカーブ、蜜柑直売店の所では町長教育長が車から下りて必死に体を振って激励する。「じわじわ行け、じわじわいけ！」監督が車からのり出して大声をあげる。じわじわ敵を追う。内野上下門の見なれた顔が真赤になって手を振る。津奈木ドライブインを廻ったころから、敵との距離はもう十―十五米、何が何だかわからない。芦北町伴走にもガックリ来た感じがはっきり読みとれる。農協給油所前でついに前に出た。バックミラーの芦北選手の顔がゆがむ。「バンザイ！第三位だぞおっ！」「やったぞベイビー！」「わあわあわあ……」たかぶった気持でそのままゴールまで来てしまった。

優勝も可能

一位とわれわれ三位の差は八分余り。それなら各区間自分の記録を夫々一分づつ縮めてくれれば、来年は優勝もねらえるわけだ。今度の三位入賞について今までとくらべて特に優れた選手が現われたわけでもない。むしろ補欠二人を起用するなど、条件は更に悪かった。それは平均年令が示すようにマラソンチームの年令といえるものではなかった。だがわれわれはそれを組織的な練習とチームの和で勝ち取ったと考える。更にそれを支えてくれたのは、町民の支援である。

選手だけでは勝てない

われわれが練習した後でウドンを食っていると、斉藤宗三さんが黙って「これ食ってくれ」とリンゴの大箱をおいて行った。元気づけにと鶏の腿焼を選手全員にくれて行った山崎正一さん。無名のまま公民館へ寄附して行ってくれた人々、思わず自分も走り出して必死の声援を送ってくれた人々、僕は死力をつくした選手と、これらの人々を切り離して考えることはできない。

みんなで走ろう

何のために走るのか―いろいろありましょうが、人間の衰えはまず足からくるといわれます。また町民の健康につながります。みなさん自分の足で走ろうではありませんか。これは遠く日本長距離界の円谷の、君原の、そして世界のマラソンの道へ通していることも知っています。

礼儀作法は誰が教えるか

誰かがあなたに「礼儀作法は誰が教えるのですか」とたずねたら何と答えますか。問題をしぼって「それは学校ですか、それとも家庭でしょうか」となったら、どちらとお答えになりますか。それとも民主主義の世の中だから、礼儀作法は必要はないとお考えになりますか。

礼儀作法はかたちにあらわれます。立ったしせい、座ったしせい、正しい立ち方、座り方、ふすま、障子のあけ方、しめ方、ドアのあけ方、しめ方、おじぎの仕方、食事の仕方、ことばづかいなどあげればきりがありません。

甘夏柑が見かけはよくとも、すゆければ、遠ざけられるように、人も外見の美しさばかりで、ゆかしさがなければ、誰からでも愛されません。

今の若者はあまりにも礼儀作法を知らなさすぎる。といわれています。人の前に足を投げだしたり、長上に対することばづかいがなっていなかったり、女の最も初歩的な作法であるお茶の出し方も知らなかったり、とくに年ごろの娘さんがこうでは……

家庭か学校かの本題にかえると、礼儀作法はやはり家庭でしつけておくべきでありましょう。親が子供の小さいときから、自分で実際して見せておけば、子供はしぜんとまねるものであります。

もちろん学校でなければ教えられないこともあります。例えば集団生活での礼儀作法のほんとうの精神であり、しかし礼儀作法のほんとうの精神であり、即ち家族に迷惑をかけぬしつけをしておけば、学校で教えることもスムーズに行くことになるのであります。

津南先生

石碑の四面にぎっしり小さい字で津南先生のことを彫りつけてある。

正面には、「津南先生深水宗安君之墓」その両側には先生の幼少のころのこと、左面から背面次に右面と続くのであるが、右面には先生の病中のこと、臨終のこと、死後のことなど書いてある。

ところが、左面、即ち北側と、背面、即ち東側は、苔が字を埋めてどうしても文にならない。千々岩先生は、指先でなでて読んだといわれるが、不学にして私には読めないので、とうとう止めてしまった。

しかし、これはこのままにしておくべきでない。恐らく至孝玄門先生「泣血して、これを建つ」と書いていられるのだから、涙とともに、文をつくり、至誠をこめて撰書されたものと思われる。それは玄門先生のためにも、残しておくべきと思うので、碑面をきれいにして拓本をとって残したい。

さて、津南先生のことを書くのに、この碑面の文字が解読されぬではすまされない。幸い千々岩先生が書き写したものがあるので、それを土台にして進めることにしたい。

津南先生のお墓は浜崎のトノミネ（塔ノ峰）にある。正しくは、「津南先生深水宗安」である。

深水家は代々医者で、玄庵―宗恕―宗安―玄門―龍崖―東吾―長胤―清（代議士）―真吾（現に再春荘の医）と今日まで続いている。

それらのお墓は今年の三月、当主の真吾先生が、周囲は垣をめぐらし、中もコンクリートで固めて、きれいにされた。

次号につづく

あいさつをしましょう

異動

多年本町教育の発展におつくし下さって、今回の異動で出てゆかれる八人の先生

津小　成田正信先生
湯浦小へ
〃　森山サツキ先生
水一小へ
〃　川野静子先生　計石小へ
赤小　西平星子先生　水東小へ
平小　山口勝郎先生　井牟田長
〃　福島節子先生　吉尾小へ

津奈木町の学校に勤めることに希望と期待とをもってこられた先生方八人は

津小　平山哲彦先生　菱形小
〃　椎葉洋子先生　袋小
〃　小西田高先生　新任
赤小　鶴田和子先生　水一小
平小　山下　茂先生　嵐口小
〃　北里キヌヨ先生小国中
津南　吉田耕一先生　湯浦小
〃　田畑セツ子先生新任

津南中学校を出る先生は一人もないが、入ってこられる先生は二人いられる。今年から特殊学級をおかれるためである。

二ラで健康を

猫が二ラをたべていましたので「どうしたの？」と聞きましたら、「おなかが悪いので」といいました。

水俣の保健所に聞きましたら、「健康にいいから、うんと食べなさい」といいました。

下益城の中央村に聞きましたら「つづけて食べていますが、なかなか身体の調子がよいです」といいました。

百科辞典には、こう書いてあります。「消化を助け、腹帯、なおす……」また「感冒時や胃腸の調節にすぐれた効力がある」と漢方薬全書には「下痢整腸剤、虫下し、温熱を保有す、補血、腹痛、吐血、鼻血、消化剤、風邪、解熱……」と書いてあります。

熊日新聞（四五、三、三）には「妻と二ラの栄養改善」「健康な村づくりめざして…成果をあげる中央村」「貧血や高血圧が減る、医療負担率も下がる」など中央村のことが、くわしく大きく記事がのっていました。

保健所の加藤幸子先生は料理の方法を次のように書いて下さいました。

○二ラたま

卵一個　塩少々　油大匙一杯
春雨20g　油大匙半分　塩少々
二ラは5cmに切り、卵は割りほぐして塩で調味する。中華鍋に油を入れて熱し、卵を入れ、手早くまぜ、フワフワの炒卵を作る。油で二ラをいため、卵と春雨を加え調味し仕上げる。

○二ラのマスタード

二ラ50g　いか20g　洋からし大さ杯　マヨネーズ大一　味噌大一　酢小一

二ラは塩ゆでし、4cmに切る。いかは皮をむきゆがいてせん切りにする。洋からしは酢でといておき、調味料をまぜ合わせ、材料を加える。

新生活運動で春まつり

四月十二日の諏訪宮と、十五日の阿蘇宮の祭典を一しょにするわけにはいかないにしても、ごちそうをこさえて神様に上げる日を同日にしてはどの話は、十何年前からのものであった。

それが今年になってようやくきまった。今年は四月十二日、この日は阿蘇宮氏子も諏訪宮氏子と一しょにごちそうをこさえる。

ごちそうが同日になったため、これまでのように、のぼったり下ったりして、ごちそうになりあうことはできなくなった。その反面、余分なお金がいらなくなったわけである。

おことわりしておかねばならぬことは、四月十二日に毎年動かないということではない。それは今年はたまたま日曜が十二日であったので諏訪宮例祭の日になったが来年はまたちがってくる。

それも、体育協会で行う相撲大会が日曜でなければ盛大に行なえないからである。

この相撲大会を奉納相撲にすることに大きい意義がある。

あいさつをしましょう

有利な檜栽培

六車　孝吉

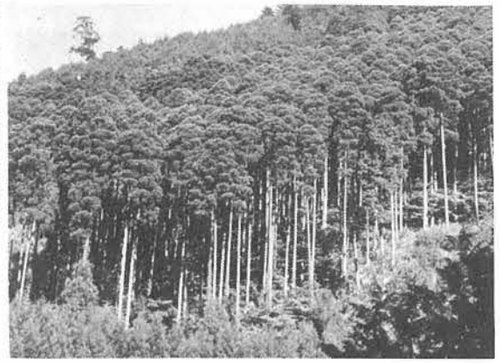
野菜は温室をつくって大事に手入れするが、山の方は見むきもしないのが現状、六車先生は、山は有利と力説される。山ばかりの津奈木町が、山を利用しないのは間違っていると思っている。そういう意味で先生の卸高説を承わることにした。

拾数年前林野庁で、林業技術の普及事業にたずさわっている担当者の、全国会議が開かれた時、「今後の林業に何を望むか」という題で、朝日新聞の某論説委員が「農業五十年の歩みを見ると、米は反当三倍以上の収穫をあげるようになったし、夢物語りといわれた八郎潟等の大干拓事業も着手されて、まさに素晴らしい進歩を辿ってきたが、一方林業では寝聞にして木の成長が二倍になったとか、特別進んだ技術ができたとか聞いたことがない。なんだか徳川時代から受けついできた山林を切り食いしながら、植えては切り、切っては植え、あなたまかせの収穫を収めているにすぎないような感じがする。もっとも農業と林業とでは同一に論ずるわけにはゆかないが、すこしくらいは感心させられるような進歩が示されてもいいような気がする云々」「早成樹の養苗と造林の実際・地球出版」と書いたのを見て、まさにその通りではないかと深く考えさせられました。

国内産の木材が不足して毎年外材が多量に輸入されていますが、おかしなことに諸物価人件費の高くなっている現在スギの価格が、十年前よりも下落しています。これを裏付けするように年々植栽面積は減少しているのを見ますと、生産者不在の林業政策によるものといえそうです。消費、林業の利廻りは年五%位で、先進地である福岡県の八女林業では八・四%で、これが全国一です。もうかる林業を行なうには余程の工夫と研究を必要とします。

今年一月発足しました津奈木造林研究会はそのため次の五項目について努力することになりました。

先づ第一に、従来行われている植え方を全面的に改める。従来の植え方は吉野林業の所謂一鍬植えに近いもので植えた年からの旺盛な成長は期待できません。第二に疎植をやめて密植する。スギは四千五百本以上、磨丸太を生産する人は八千本以上、ヒノキは六千本及至六千五百本程度植え付けます。疎植すれば楕円形になり枝も大きくなります。第三は幼令期から枝打を行って無フシの良材を生産します。幼令樹は樹高の二分の一、壮令樹は樹高の三分の二迄枝打ちします。第四は施肥によって伐期の短縮を計ります。第五は苗木の自家生産により造林費の節約を計ります。詳しいことは造林研究会に御出席いただいて、皆様方の御研究を発表いただきたいと思います。



研究会は出好きの方はどなたも自由に参加でき、勿論脱退も自由です。

全国に三万町歩も山林を経営している木原造林会社の山が水俣にもありますが、我々の持ち山の体質改善には一番いい手本だと思いますので、四月中にはその山の見学をしたいと思っています。御互いに研究をつづけて、より豊かな郷土を建設したいのもです。

農家の後つぎ　農協に委託

一、あとつぎがいない場合

Sさんは七十をこして、今なお元気でミカンを奥さんと二人で経営してこざる。しかしあとをつぐ子供さんがいない。Mさんは一ヘクタールばかりのミカンを作っていられる。息子さんはこざるが農業はせぬという。

二、あとつぎのある場合の[1]

Yさんの息子さんは県の果樹試験場も出、自分でミカンをやっていますが、ミカン専業では食ってゆけないので、俸給とりになってミカンは兼業です。

三、あとつぎのある場合の[2]

経営面積が広いので、そのことばかりで手一ぱいで、他に動めができない。いわゆる専業農家であります。

一番なやみの多いのはSさんMさんの場合ではないでしょうか。さきさきのことを考えると、張りあいもなくなりましょう。

転住している家の田畑を、誰かが作って適当に収益金を配当するようにしたら、喜ぶ人は一人ではありますまい。

Yさんのように別に仕事をもっていてミカンを兼業することができたら、津奈木をあとにする人はズッと少なくなるだろうと思います。「工場に働きながら農業を……」と考えただけで、胸がほのぼのとあたたまる思いがします。

あとつぎのないおうちの田畑、出稼ぎに出られた間の耕作は、農協が引きうけて世話するそうです。いや、そうせねばならぬきまりになっているのだそうです。えんりょなく申し出ましょう。早く申し込んで安心しましょう。

戸籍と女性

離婚

知らない間に夫（又は妻）から離婚届が出されたとしたら、どうしますか。

（答）法律上、離婚の方法に(一)協議離婚(二)調停離婚(三)審判離婚(四)判決離婚の四種があります。今回は協議離婚について御説明申します。

「別れよう」「別れましょう」と夫婦が話合って別れるのですから手続きもかんたん。ただ役場に離婚届に印をおすことと、二人以上の証人の署名なら印だけでよい。

ただし子があるときは、どちらが養うか（親権者）について書き入れなければならない。

また、問にあるように、別れたくないのに一方から勝手に離婚届を出したものなら、もちろん無効。その逆なこともある。それは、夫が借財にくるしんで、自分の財産を妻の名義にかきかえて、妻と共謀して離婚したとしたら同様無効。

しかし、法律上いくら無効であっても、そのままにしておくと、認めたと同じだから、そのときは、家庭裁判所に、そのむね申し立てて離婚無効を認めてもらわねばならない。

ところがこの話しあいがつかぬときは、地方裁判所までうったえて、無効を認めてもらい、この判決のうつしを添えて、抜いてある戸籍を元通りにしてもらう手続きを役場に申請する。これでもとの夫婦にかえることになる。

夫婦にかえったら、相続人にもなれ、妻は夫に扶養してもらう権利も生まれてくることになる。

御寄附

○松本　央氏　金三万円　マラソンクラブへ
○田中典次氏　金三万円　津奈木町婦人会へ
○山本　昇氏　津南中学校へ壱万円相当の図書を寄贈
○古川澄男氏　津奈木小学校新入生にズック入れ袋九十五
○水俣地区交通安全協会　交通安全帽子（黄色）一〇四を津奈木赤崎平国の各小学校の新入生全部へ
○ライオンズクラブより津奈木小学校新築記念に八万円寄贈
○田中典次氏と上原正徳氏より津奈木町社会福祉協議会に金一封。